

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ぼぶら（児童発達支援）		
○保護者評価実施期間	令和7年 4月 1日 ～ 令和8年 3月 31日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	34	(回答者数) 33
○従業者評価実施期間	令和7年 4月 1日 ～ 令和8年 3月 31日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	18	(回答者数) 18
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 3月 2日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	障害の特性に応じて、集団活動・個別活動の体制を整えている。	個別のニーズに合わせたプログラムを設定している。 視覚支援やコミュニケーションツールとしてサインやカードを用いながら子どもが見通しを持った生活ができるよう支援している。	視覚情報を手掛かりに子ども達が主体的に行動できる動線やスケジュールを可視化していく。
2	午後の活動を取り入れ、クラス以外の子ども同士（職員）と一緒に活動する時間を作っている。それにより、職員が子ども達全員の状況を把握できるようになった。	子ども達の様子によってグループや職員の配置を変更しながら、適切な人数で活動できるよう取り組んでいる。 子ども達の様子を職員で共有しあうようにしている。	クラスの子どもの事だけでなく、全体でぼぶらを利用していることも一人ひとりのエピソードなどを話し合う時間を作っていく。
3	専門職員（STやPT）の視点から見える子どもの発達について、職員間で共有している。	専門職員の助言を記録に残しながら、クラス内で共有し、保育に活かしている。	専門職員とクラス職員の話し合いの場を増やしていきたい。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	日々の活動の様子や内容・子どもの成長について、保護者に対して、伝えきれていない部分がある。	保育参観の場は設けているが、全保護者に対し個別参観の時間は設けていないため、保護者にとってわかりにくい部分があると感じている。	定期的に保育参観や個別給食参観を設け、実際に子ども達の様子や成長を確認していただく機会を作る。
2	地域の幼稚園・保育園との交流する機会がほとんどない。	コロナ以降、地域園と交流する機会がなくなってしまった。また地域園に移行を希望するご家庭が減り、個別交流を実施していない。	子ども同士の交流だけでなく、地域のボランティアや老人施設等の方との交流の場を広げていきたい。イベント等にきょうだい児を呼んだり、成人施設の利用者さんを招待し、さまざまな人との交流の場を設け、雰囲気味わう機会を作っていく。
3	職員の質の向上と支援の方向性の統一をさらに強化していく。	所内で研修を実施しているが、職員によって受け取り方が違い、保護者に丁寧な対応ができず、不安な気持ちにさせてしまった。	職員研修や管理者による職員との個別面談を実施し、意識統一を図っていく。 保護者との信頼関係を築き、話しやすい雰囲気作りを心がけていく。

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ぼぶら（保育所等訪問支援）		
○保護者評価実施期間	令和7年 4月 1日		～ 令和8年 3月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 4
○従業者評価実施期間	令和7年 4月 1日		～ 令和8年 3月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	2	(回答者数) 2
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 3月 2日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	特性を持つお子さんが、集団の中で、どのような関わり方や手立てがお子さんに適しているかを観察し、訪問園に伝えている。	集団生活の中で、お子さんが見通しを持って生活できるような環境をより整えていけるかを観察し、訪問園の先生と話し合っている。	集団の中で、安心・安全な居場所作りができるような環境設定を考えていきたい。
2	特性を持つお子さんのあそびを共有しながら、支援方法を一緒に考えていく。（STも同行し、専門的な視点から見える子どもの発達をとらえるようにしている）	子どものよいところ、訪問園のできている支援等を確認しながら、具体的によい点を伝えるようにしている。	訪問園と連携しながら、お子さんが集団生活の中で安心して生活できる環境を整えていきたい。
3	専門職員（STやPT）の視点から見える子どもの発達について、職員間で共有している。		

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	不適応行動が見られるお子さんの対応等、なかなか手立ての方法がみえにくく、適切な対処法がアドバイスできない時があった。	不適応行動が見られるお子さんのあそびがさまざまであり、通常園にて、取り組める支援方法を見つけ出すことが難しかった。	人的環境も含め、今ある資源の中で、どんな支援が有効であるか等、訪問支援を行う上でのスキルを上げていきたい。
2	訪問支援職員が少なく、現状、訪問できる園や回数に限られてしまう。	職員の人材育成等を行っている最中であり、現在、発達支援の現場にて、経験と実績を積んでいる。	今後も継続して人材育成を行ってきたい。
3			